



弘前大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー

弘前大学医学部医学科は卒業時に修得しておくべき能力（アウトカム）として卒業時コンピテンシー（10領域）及び卒業時コンピテンシー（59項目）を規定しています。

PR: プロフェッショナリズム(Professionalism)

人の命と健康を守るという医師の職責を理解し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたり、医師としての道を究めていくことができる。

1. 卓越した臨床能力と高い倫理感を持ち、患者の利益を第一に追求し、公共の福祉に貢献することが医師の職責であることを理解できる。
2. 医療職として適切な服装、態度、言葉遣い、行動をとることができる。
3. 豊かな教養を持ち、誠実かつ思いやりを持つ行動できる。
4. 医師と患者・家族の信頼関係を築き、社会から信頼される医師を目指すことができる。
5. 患者・家族の価値観や社会的背景に配慮し、対応できる。
6. 患者情報の重要性を理解し、守秘義務を遵守できる。
7. 医師法を含む医療関連法規を理解し、遵守できる。
8. 利益相反について理解し、職業上発生する利害に適切に対処できる。

GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢(Generalism)

患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い、個人と社会のウェルビーイングを実現することができる。

1. 全人的な視点とアプローチにて専門領域にとどまらない姿勢で臨床実践に関与できる。
2. 地域の実情に応じた医療・保健・福祉・介護の現状と課題を理解し、プライマリ・ケアの実践、ヘルスケアシステムの質の向上に貢献できる。
3. ライフサイクル（胎児期～終末期）の視点で患者・家族・生活者に起こり得る精神・社会・医学的な問題に関与できる。
4. 文化的・社会的文脈のなかで生成される健康観や人々の言動・関係性を理解し、文化人類学・社会学の視点から臨床実践ができる。

LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢(Lifelong Learning)

安全で質の高い医療を実践するために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたり自律的に学び、積極的に教育に携わることができる。

1. 生涯学習続ける価値観を持ち、学修・経験したことを省察し、自己の課題を明確にできる。
2. 自身の職業観を涵養しながら、主体的にキャリアを構築できる。
3. 医学知識が常に変化することを認識し、現時点での最新の医学情報にアクセスできる。
4. 医師・医学生に限らず、同僚や後輩を含む医療者への教育に貢献できる。

RE: 科学的探究(Research)

医学・医療の発展のための医学研究の重要性を理解し、科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動に関与して医学を創造することができる。

1. リサーチマインドを涵養し、研究のオリジナリティの重要性を認識できる。
2. 医療の実践が基礎・臨床・社会医学の研究に基づいていることを理解できる。
3. 医学論文（英語）を読んで概要を理解できる。
4. 自身の関心を「問い」とし、研究案を作り、データを適切に管理できる。
5. 自身の研究を論文や学会発表等の形にまとめ、わかりやすくプレゼンテーションでき、他の研究者の発表に対して質問や意見を述べることができる。
6. 捏造、改ざん、盗用等を含め研究不正の類型を説明することができ、研究不正を行わず、適切に研究を遂行できる。

PS: 専門知識に基づいた問題解決能力(Problem Solving)

専門知識を身に付け、根拠に基づいた医療(Evidence-based medicine(EBM))を基盤に、経験も踏まえながら、患者の抱える問題を解決することができる。

1. 基礎医学として、生命現象の科学、個体の構成、機能、反応、病因と病態について理解できる。
2. 各器官の正常構造と機能を理解し、疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療の知識を臨床的に使用できる。
3. 器官横断的で全身に及ぶ生理的变化を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療の知識を臨床的に使用できる。

IT: 情報・科学技術を活かす能力(Information Technology)

発展し続ける情報化社会を理解し、人工知能等の情報・科学技術を活用しながら、医学研究・医療を実践することができる。

1. 情報・科学技術を医療に活用することの重要性と社会的意義を理解できる。
2. 情報・科学技術に関連する規制（法律、ガイドライン等）の概要を理解できる。
3. 電子カルテ等の医療情報の管理・保管の原則を理解し、関連する法律、倫理基準、個人情報保護のための規定等を遵守できる。
4. ソーシャルメディア（インターネット、SNS等）の利用において、医療者として相応しい情報発信の在り方を理解し、実践できる。
5. 情報・科学技術を理解し、自身の学修や医療へ適応する姿勢を体得できる。
6. 診療、学修に有効なICT技術やデジタルコミュニケーションスキルを修得できる。

CS: 患者ケアのための診療技能(Clinical Skills)

患者の苦痛や不安感に配慮し、確実に信頼される診療技能を磨きながら、患者中心の診療を実践することができる。

1. 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用い、病歴を適切に聴取し、情報を取捨選択し、整理できる。
2. 全ての情報を統合しながら問題志向型医療記録を作成し、臨床推論を行うことができる。
3. 診断や治療に必要な検査計画を立案し、検査結果を解釈することができる。
4. 専門的診療が必要かどうかを考慮し、治療計画を立案できる。
5. 代表的な疾患における患者指導の教育計画を立案できる。
6. 患者・家族、医療スタッフと連携し、検査手技、治療手技、救急・初期対応、書類作成の下書きを作成し、治療カンファレンスに報告できる。
7. 実施された医療は省察し、各種カンファレンスにて説明できる。
8. 医療を改善する重要性を理解し、繰り返し評価することができる。
9. 医療従事者に求められる健康管理、職業感染対策を実践できる。
10. 患者安全のための管理体制や感染症に関連した役割を理解し対処できる。
11. 診療録の重要性を理解し、適切に記載し、取り扱うことができる。
12. インシデントが発生した際に、緊急対応や記録、報告ができる。

CM: コミュニケーション能力(Communication)

患者及び患者に関わる人々と、相手の状況を考慮した上で良好な関係性を築き、患者の意思決定を支援して、安全で質の高い医療を実践することができる。

1. 患者のプライバシーに配慮できる。
2. 言語的コミュニケーションにて、良好な人間関係を築くことができる。
3. 非言語的コミュニケーション（身だしなみ、視線、表情、ジェスチャー等）を意識できる。
4. 患者や家族の話を傾聴し、精神的・身体的・社会的苦痛に十分配慮しながら、敬意を持った言葉遣いや態度で接することができる。
5. 患者や家族の多様性（高齢者、小児、障害者、LGBTQ、国籍、人種、文化・言語・慣習の違い等）に配慮してコミュニケーションをとり、分かりやすい言葉で説明できる。
6. 患者の心理的及び社会的背景を捉え、問題点を抽出・整理できる。
7. 医療の不確実性を理解した上で適切な行動や態度をとることができる。

IP: 多職種連携能力(Interprofessional Collaboration)

医療・保健・福祉・介護等、患者・家族に関わる全ての人々と良好な関係を築き、患者・家族・地域の課題を共有し、関わる人々と協働することができる。

1. 患者・利用者・家族に関連する情報について、多職種及び他の医療系学部との学生と共有できる。
2. 適切な診断・検査・治療のために、適切な施設・専門科・医師へ紹介できる。
3. 自他の役割や思考・行為・感情・価値観を踏まえ、協働する職種で信頼関係を構築し、自分の役割を全うできる。

SO: 社会における医療の役割の理解(Medicine in Society)

医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野等も持ちながら、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努めることができる。

1. 地域保健、産業保健、健康危機管理を理解できる。
2. 疫学と主な研究デザインを学び、医学・生物学の統計手法を理解できる。
3. 死の判定を理解し、死亡診断書・検案書を作成し、病理解剖、法医学解剖について理解できる。
4. 健康に関する問題について、多様性を尊重し、積極的に行動できる。
5. グローバルヘルスの役割や医療体制について概要を理解できる。
6. 健康観や人びとの言動・関係性を理解し、医療人類学・医療社会学の視点から臨床実践ができる。